



經典 貞昌院版



曹洞宗天神山貞昌院

經典

般若心經 修証義

曹洞宗 天神山貞昌院版

○摩訶般若波羅蜜多心經

かんじさいほさう ぎょうしんはんにやーはらみいたーじー しょうけんこーおんかいこう

觀自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空

どーいごいこーやく しゃりーしー しきふーいこく くらふーいしき しきそくぜーく

度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異色 色即是空

くそくぜーしき じゆーそぎょうしき やくふーによーぜー しゃりーしー ぜーしよほーくうそ

空即是色 受想行識 亦復如是 舍利子 是諸法空相

ふーしよふめつ ふーくふーじよ ふそうふーげん ぜーこーくうちゆうむーしき

不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中無色

むーじゆーそぎょうしき むーげんにーびーぜうしんにー むーしきしょうこうみそくほう

無受想行識 無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法

むーげんかい ないしむーいしきかい むーむーみやうやくむーむーみょうじん ないしむーらうし

無眼界 乃至無意識界 無無明亦無無明尽 乃至無老死

やくむーらうしーじん むーくしゆめつどう むーちやくむーとく いーむーしよとくこー

亦無老死 無苦集滅道 無智亦無得 以無所得故

ぼーだいさつたー えはんにやーはらみいたー こーしんむーけいけー むーけいけー

菩提薩埵 依般若波羅蜜多 故心無罣礙 無罣礙故

むーうくふー わんりーいつさいてんどうむーそう くぎょうねはん さんぜーしよど

無有恐怖 遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃 三世諸仏

えはんにやーはらみいたー こーとくあーのくたーらーさんみやくさんほーだい

依般若波羅蜜多 故得阿耨多羅三藐三菩提

こーちーはんにやーはらみいたー ぜーだいじんしゆー ぜーだいみょうしゆー ぜーむーじようしゆー

故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪

ぜーむーどうせうしゆー のうしゆいつさいー しんじつふーこー

是無等等呪 能除一切苦 真實不虛

こーせつはんにやーはらみいたーしゆう そくせうしゆーわつ

故說般若波羅蜜多呪 即說呪曰

ぎやーていぎやてい はらぎやてい はらそうぎやてい ほーじーそわかー

羯諦 羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶

はんにやーしんぎょう

般若心經

般若心経読み下し

観自在菩薩が、深般若波羅蜜多を行じし時、五蘊は皆空なりと照見し、一切の苦厄を度したまえり。

舍利子よ、色は空に異ならず、空は色に異ならず。色はすなわちこれ空、空はすなわちこれ色なり。受・想・行・識もまたかくのごとし。

舍利子よ、この諸法は空相にして、生ぜず滅せず、垢つかず浄からず、増さず減らず。この故に空の中に色なく、受・想・行・識もなく、眼・耳・鼻・舌・身・意もなく、色・声・香・味・触・法もなく、眼界もなく、乃至、意識界もなし。

無明もなく、また無明の尽くるともなく、乃至、老も死もなく、また老と死の尽くるともなく、苦・集・滅・道もなく、智もなく、また得もなし。無所得を以つて故、菩提薩埵は般若波羅蜜多に依る、故に心に罣礙なく、罣礙なき故に、恐怖あることなく、一切の顛倒夢想を遠離して、涅槃を究竟す。

三世諸仏も、般若波羅蜜多に依るが故に阿耨多羅三藐三菩提を得たもう。

故に般若波羅蜜多を知るべし、これ大神呪なり、これ大明呪なり、これ無上呪なり、これ無等等呪なり、よく一切の苦を除くこと、真実にして虚ならざる。

故に般若波羅蜜多の呪を説く。すなわち、呪を説いて曰く、

ガーター　ガーター　パーラガーター

パラサンガーター　ボーディ　スヴァハー

般若心経○

○修証義

第一章(總序)

生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり、生死の中に仏あれば生死なし、但生死すなわち涅槃と心得て、生死として厭うべきもなく、涅槃として欣うべきもなし、是時初めて生死を離るる分あり唯一大事因縁と究尽すべし。

人身得ること難し仏法値うこと希なり、今我等宿善の助くるに依りて、已に受け難き人身を受けたるのみに非ず、遭い難きの善身を徒にして露命を無常の風に任すること勿れ。

無常憑み難し、知らず露命いかなる道の草にか落ちん、身已に私に非ず、命は光陰に移されて暫くも停め難し、紅顔いつく

へか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし、熟観する所に往事の
再び逢うべからざる多し、無常忽ちにいたるときは

国王大臣親昵従僕妻子珍宝たすくる無し、唯独り黄泉に趣

くのみなり、己に随い行くは只是れ善悪業等のみなり。

今の世に因果を知らず、業報を明らめず、三世を知らず善悪を

弁まえざる邪見の党侶には群すべからず、大凡因果の道理歴然

として私なし、造悪の者は墮ち、修善の者は陞る、毫釐もたが

わざるなり、若し因果亡じて虚しからんが如きは、諸仏の出世

あるべからず、祖師の西来あるべからず。

善悪の報に三時あり、一者順現報受、二者順次生受、三者

順後次受、これを三時という、仏祖の道を修習するには、其の

最初よりこの三時の業報の理を効い験らむるなり、爾あらざれ

ば多く錯りて邪見に墮つるなり、但邪見に墮つるのみに非ず、
悪道に墮ちて長時の苦を受く。

当に知るべし今生の我身二つ無し、三つ無し、徒らに邪見に
墮ちて虚しく悪業を感得せん、惜からざらめや、悪を造りな
から悪に非ずと思ひ、悪の報あるべからずと邪思惟するに依り
て悪の報を感得せざるには非ず。

第二章(懺悔滅罪)

仏祖憐みの余り広大の慈門を開き置けり、是れ一切衆生を

証入せしめんが為なり、人天誰か入らざらん、彼の三時の

悪業報必ず感ずべしと雖も、懺悔するが如きは重きを転じて

軽受せしむ、又滅罪清浄ならしむるなり。

然あれば、誠心を専らにして前仏に懺悔すべし、恣麼するとき

前ぜん仏ぶつ懺ざん悔げの功く徳とく力りき我われを拯すくいて清じやう淨じやうならしむ、此この功く徳とく能よく

無む礙げの淨じやう信しん精しやう進じんを生しやう長ちやうせしむるなり、淨じやう信しん一いち現げんするとき、

自じ佗た同どうじく転てんぜられるなり、其その利り益やく普あまねく情じやう非ひ情じやうに蒙もうぶらしむ。

其その大だい旨しは、願ねがわくは我われれ設たい過た去たの悪あく業ごう多たく重おもなりて障しやう道どうの

因いん縁えんありとも、仏ぶつ道どうに因よりて得とく道どうせりし諸しよ仏ぶつ諸しよ祖そ我われを愍あわれみ

て、業ごう累るいを解げ脱だつせしめ、学がく道どう障さわり無なからしめ、其その功く徳とく法ぽう門もん普あまねく

無む尽じん法ぽう界かいに充じゆ満まん弥み綸りんせらん、哀あわれみを我われに分ぶん布ぷすべし、仏ぶつ祖その

往わう昔しやくは吾われ等らなり、吾われ等らが当とう来らいは仏ぶつ祖そならん。

我が昔しやく所しよ造ぞう諸しよ悪あく業ごう、皆かい由ゆう無む始し貧ひん瞋しん癡ち、從じゆう身しん口く意い之し所しよ生じやう、

一いつ切さい我が今こん皆かい懺ざん悔げ是かくの如ごとく懺ざん悔げすれば必かならず仏ぶつ祖その冥みやう助じよあるな

り、心しん念ねん身しん儀ぎ発ほつ露ろ白びやく仏ぶつすべし、発ほつ露ろの力りき罪ざい根こんをして銷しやう殞いんせしむ

るなり。

普回向

(お経の後にお読みいたします)

ねが 願わくはこの功德を以て普く一切に及ぼし
われ 我らと衆生と皆共に仏道を成ぜんことを

十方三世一切佛 諸尊菩薩摩訶薩 摩訶般若波羅蜜

○五観の偈

(食事の前にお読みいたします)

一には 功の多少を計り彼の来処を量る

(おいしさを つくつてくれて ありがとう)

二には 己が徳行の全欠を付つて供に応ず

(ふり返ろう 私のおこない その心)

三には 心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす

(言わない やめよう 好き嫌い)

四には 正に良薬を事とするとは形枯を療ぜんが為なり

(身をつくり 心をつくる よき薬)

五には 成道の為の故に 今此の食を受く

(いただきます 今を大事に 生きるため)



般若心經 修証義

編集・発行 曹洞宗貞昌院

Phone 045-843-8852

FAX 045-843-8864

URL <http://teishoin.net>

